



令和 7 年 5 月 1 日
佛教大学附属こども園

仏教保育 5月のねらい

じかいわごう
持戒和合

「おうちとこどもえん」

新しい生活がスタートし、約一か月が経過しました。やっと保護者の方との離れ際の涙が止まり、笑顔で「バイバイ」ができるようになった姿、平気で遊んでいたのにこの頃になってお母さんと離れがなくなった姿、新しい学年になり環境が変化したことに戸惑い行き渋りをする4, 5歳児の姿・・・と、様々な姿が見られる毎日です。ここでは、そんな一か月の中の一つのエピソードをお伝えします。

入園式翌日、登園から降園までの間ずっと涙が止まらなかった3歳児の男の子のお話です。心配された保護者の方が、一枚のお手紙を担任にくださいました。「息子は虫と乗り物が大好きです。少しでも楽しい気持ちで過ごせたら・・・。」とお母さんの願いとともにお子さんの好きなことが書いてありました。保育者はその文面を見て園庭で一緒に虫を探しました。まだ肌寒い日でしたので、虫はなかなか見つかりませんでした。でも保育室前のプランターをよけると、まだ冬眠中のダンゴムシが数匹いたのです。「まだ冬眠中ですね。ごめんなさい。」と思いながらも、その子の手にはダンゴムシをのせると表情が緩み、じっとダンゴムシを見つめます。その瞬間は大好きなお母さんのことも忘れていたようでした。そしてダンゴムシを容器に入れると、その後大事そうに持って歩いていた。そして「おうちに持って帰る。」とつぶやきました。おうちにダンゴムシを持って帰った翌日、その子の手には昨日持ち帰ったダンゴムシの入った容器がありました。「こどもえんに持っていく。」とおうちでお話していたようです。園ではまたダンゴムシを探します。そしてまた持ち帰るのです。

こうやって大好きなものを持って「おうち」と「こどもえん」を行ったり来たりするうちに自分の大事なものを通して園のことも大切な場所になっていくのでしょう。そしてお母さんが言っておられたように、ブルドーザーを持って遊ぶ姿も見られ始めました。お子さんのことを真ん中において保護者の方と保育者がつながっていくことが子どもたちの安定につながることを感じさせていただいたエピソードです。4月には3, 4, 5歳児の個人面談で、お子さんの大好きなことを共有できていれば幸いです。0～2歳児の方については直接担任とお話できる機会もあるかと思います。お気軽にお声掛けくださいね。

そして5月の保育のねらいは「持戒和合（じかいわごう）」です。

「きまりを守り園生活を楽しもう」です。

楽しく園生活を送ることができるようにも、一人ひとりの子どもたちの好きな場所、好きな人、好きなこと、好きなものが見つかることを願っています。

副園長 村上真理子

